

## 平成 28 年度 第 2 回菊川市男女共同参画推進懇話会及びプラン策定委員会 報告書

年月日	平成 28 年 9 月 14 日 (水)	場 所	菊川市役所 2 階 201・202 会議室 19:00~21:00
検討事項	(1) 第 3 次菊川市男女共同参画プランの策定について		
<p>(1) 第 3 次菊川市男女共同参画プランの策定について</p> <p>① 第 3 次菊川市男女共同参画プランの素案について</p> <p>【事務局】①第 3 次プランの素案について説明。</p> <p>●委員の皆さんより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この参画プランが施行される期間は 5 年間という事だが、その間に影響を及ぼすような大きな政策が施行されたり社会情勢に大きな変化が起こった場合には見直すことはあるのか。また実際見直したことはあるか。</li> <li>→基本的にはないが、必要に応じればある。第 2 次の中で見直したことはない。例えば女性の活躍推進法などが施行されて、今回第 3 次のプランが女性活躍推進法に基づく市町村の推進計画に位置づける形で作るタイミングで合うのでやるのだが。既存の計画をそのまま新しい推進計画に出来ない場合は、既存のプランを見直して解体してやる。その為、市町の中には既存の計画を見直してそれを女性活躍法の推進における計画に位置づけた場合もあるので、仮に将来そういう風になった場合は菊川市としても見直しや変更を行い、盛り込んだ形になると思う。</li> <li>・幹の部分が変わることはないと思うけれど、枝の部分がね。</li> <li>・会社の中で注記を作っていると、お金のことなので毎年見直す。ローリングと言うのだが。3ヶ年作っても 1 年終わると、じゃあまた見直してみようかと毎年ローリングする。これは基本的にそれとは違うからね。基本的には見直さない、必要に応じればということ。</li> <li>・プランの基本的な考え方の所での文章のところだが、目標を先に入れ替えて文章をわかりやすくしたらどうか。</li> <li>→今まで議論してきた事を活かし、文章を入れ替えて作り直す。</li> <li>・女と男がお互いを認め合い、自分らしく暮らすことができるまちは凄く良い文言だと思う。</li> <li>・100 以上の ID 全ての内容がそこにに基づくという意味で、男女が対等な関係のコンセプトはすごく大事。</li> <li>・基本目標 3 つに置き換えたが、それを現実に出来る様な位置づけは凄く大事だと思う。</li> <li>・理念があって、その理念に向かって菊川市の課題が何というのをしっかり書いてあるのがわかりやすい。</li> <li>・昔は男女平等と言ったが、同じことをやれよという意味とは違う。</li> <li>・菊川市では男は仕事、女は家庭という風潮の中でこれを進めていくのは至難の業である。</li> <li>・正に上下関係を作らない。対等な感じ。対等という意味合いも大事だと思う。</li> <li>・いちばん大切なのは女性と男性の位置関係がずれてきた、そこが本当に対等でないと。</li> <li>・会社でも対等でいこうとしている。</li> <li>・まちっていうところがいい。段々スポットが小さくなって行って社会作りからまちという事でプランが進んでいると感じる。最初作ったプランも本当に良いと思う。</li> </ul> <p>【事務局】基本目標 1 (基本施策 1 から基本施策 3 まで) 説明。</p> <p>●委員の皆さんより</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業名と内容が分かりやすく書いてある。</li> </ul>			

- ・ID3中・高生との子育てについての学習で、パッと見た時に中高生も子育てをしなきゃいけないのかというように見えてしまう恐れはないか。もう少し良い表現があればと思うが？例えば読点や()を入れるなど。
- ・P2の下で文章で性別に関係なくと女性も男性もは重複しているので直した方が良いと思う。

【事務局】基本目標2（基本施策4から基本施策7まで）説明。

●委員の皆さんより

- ・高齢者の所と外国人支援の所が男女参画の視点を取り入れていかないと、意味がなくなってしまう。

【事務局】基本目標3（基本施策8から基本施策10まで）説明。

●委員の皆さんより

- ・今回男性に着目しているのが印象的だった。男性の働き方・過去の慣行を変えていくというイメージが良い。
- ・市内の女性の活躍を見せていく「見える化」が大事。皆で考えていける。
- ・働き方もそうだが、気を付けないと男社会の方に傾いていく恐れがある。なのでパートナーや対等なという言葉が消えているのが、どうなのかと思った。
- ・0.1.2歳のお話し会の中でブックトーク、その本を推奨する側にも責任がありますよというのを裏側に書いてほしいと思う。0.1.2歳のお話し会をやればどんな本を選んでもいいよじゃなくて、そこで配慮するのがとても大事。
- ・赤ちゃんと高校生が触れ合うのも何が必要なのか。お互いの人権の問題とか子育ての大変さとか重大さとかそういう事を、中高生小学生に赤ちゃんに触れ合うだけではなくて、そのところを伝える為の書き方に難しさを感じる。
- ・「イクメン」「カジダン」という言葉は本当に必要か。これは流行語みたいな雰囲気、5年後を考えると消しちゃってもいいじゃないか。イクメンに対してアレルギーを示した世代か。
- ・自分の親の世代もそうだが、夫が何もしてくれないという愚痴は聞く。しかし一方で夜ママ友と飲み会に行ったので、その間家では夫が子どもを見ているという事で変わってきているのではないか。そういう中で5年後がどうなっているのか、そんなにかけ離れているイメージはない。
- ・先ほどの指標で意識と環境を分けているのが良いなと思った。今回男性の労働時間に踏み込むというのが良いと思った。男性の意識改革をするだけでは難しいと感じている。定時に帰れますっていう時にこの環境づくりの方の20ページの成果指標男女共同参画社会づくり宣言事業所の団体数を増やすというところ。あと活動指標でももう少し踏み込んでもいいのかなと思った。
- ・男性の労働環境を変えるところで見えて来るようなものが面白いんじゃないかと思った。
- ・私が前職パート社員でいる間に会社がこの宣言事業所になった。呼ばれたのが子育てしている世代で、これからする世代の女の人が働きやすくなっていくが、その中に男性はまだ入ってこない。というところで今回第3次ということで宣言した事業所がその後、例えば男性への関わり方が変わったとか前向きな事例などが指標の中から見えてきたりすると、真似してみようとか変わるヒントが見つかるかなと思う。
- ・例えば広報が最後に企業訪問とかあるが、そのページで宣言事業所の訪問。男性が早く帰っている所とか、具体的な行動まで行っている企業があれば取り扱ってもらおうとか。男性の生き方も変わっているような例があれば、面白そうだと思う。
- ・県の中では必ず1つくらいはあるが。女性が働きやすい職場を追求していったら実は男性にもとても働きやすい職場に変わったとか感想が出てくればカッコいいなと思う。
- ・短時間勤務だけど利益になるような、その辺が難しいでしょうけれども。

- ・広報活動でしょうかね。
- ・紹介というか、さっきの見える化とはそういうことだと思う。事例とか出しながらね。
- ・厳しく成果を見られますよ。
- ・男性にとつたらもしかしたら仕事していた方が楽なのかもしれない。家に早く帰って家事や育児をするより、仕事していた方がよっぽど楽ですよという人もいるかもしれない。気も使うし色々。  
→今の指標の方に関してはちょっと担当課の方とも話をしてもらって検討する。
- ・指標を見ても理想とかけ離れているとは思わない。実際僕の周りを見ても父親が料理をしても実際そんなに珍しいことじゃない。周りの家庭を持っている人達を見てもそう思っているように感じるので、少なくともこういった取り組みが全然無駄になっているとかではないと思う。少しでもこう、広めていく姿勢が大事だと思う。

#### 【基本理念にパートナーという言葉を入れるかについて】

【事務局】基本理念という一番スタートの所というか、一番大事な所で松本先生からご指摘いただいて事務局の方でこういうパターンを取ったという事である。大袈裟な物じゃないが理由として基本理念はシンプルでわかりやすい。短いフレーズの方が読み易いというのがあったから、前回女と男がパートナーという言葉これを尊重した上でどこを削って一番文章の短い中でイメージ出来やすいかと言う中でこの文面になった。作っている立場としたら、パートナー対等というのが当たり前という意識になっていて外させて頂いたという形になっている。先生が言われたとおり、パートナー＝対等というのが男女共同参画の実現すべき根底にあるものというのも事実なので、この部分委員さんの方からご審議頂いてどちらかっていうのを決定していきたいと思っている。

#### ●委員の皆さんより

- ・「パートナー」夫というイメージがある。家庭とか職場とかで話す時にこの「パートナー」という言葉がなくてもスッと入る。だから「パートナー」という言葉はなくてもいいと思う。
- ・パートナーが対等という意味とは一般的ではない？
- ・結婚していないけれどお互い助け合うという意味でのパートナー、同性愛者はパートナーと言う。パートナーという言葉の中には対等という意味合いを入れてあると思っているが？
- ・「パートナー」という言葉を聞いて市民がどういうイメージを持つかなど。僕は「パートナー」というと夫か妻、あるいは一緒に住んでいる人。会社の中でも男女は必ずいるし、社会生活の中でも男女は当たり前にいるし。本当に見た人が「パートナー」って言葉を見た時に狭い意味で、夫婦や一緒に住んでいる人を思い浮かべるとしたら誤解される恐れがあると思った。
- ・「パートナー」という言葉は良い言葉だが、普段あまり使わない言葉だと思う。イメージが沸きにくいと思う。「互いに認め合う」が大事なところだと思う。「パートナー」というと男と女という意味が始めに出てくるから、平等とかのイメージは出来ないと思う。「認め合う」というのがちゃんと入っていれば「パートナー」はなくてもいいと思う。
- ・私も最初パートナーって普段使わないなあと思った。一番使っているのは仕事のパートナーという時。「パートナー」が対等とかいろんな意味があるという事をどれだけの人が分かっているかなと思う。なければなくて、スッと入っていった。意味とかいろんなことを考えていれると、良い表現になるのかなと思う。
- ・「パートナー」を入れると1対1、1組という感じが出てしまう。自分の職場は男ばかりなもので、2人で1つというのでもいいとは思いますが、これを見る限り夫婦とかになってしまうと思う。もしグループで仕事をしていると「パートナー」とは何だという気持ちになるかと思う。下の書いてある男と女そのままなら、誰でもいいのかなあと。グループで仕事していると認め合うというのは入ってくるし、「パートナー」とい

うと限定されてしまうかなと思った。

- ・「お互いに認め合って、自分らしく暮らせるまち」だが、価値観が…。「パートナー」が入る事によって、より男女共同参画に近づく気がする。それもまた考えていながら。
- ・一番こだわるのは、日本国憲法にある「個人の尊重と生命の平等」。鈴木委員が言われたように大分変わってきていると思う。夫婦間の役割分担も変わってきているし、男性も女性も。
- ・男性の家事分担もしてきているし、しかし本当はどこに突き詰めなきゃいけないかという「対等」だと思う。それがなかったら絶対駄目だと思う。
- ・極端な話、私も今掛川市役所にいるが嘱託職員や非常勤は定年退職した我々みたいな者たちだけである。女性の非常勤は若い人が沢山いる。そういうところから目に見えない対等じゃない関係がいっぱいある。男性はちゃんと復帰して正規の職員になっている。女性は育休産休取ったからとか、1回やめちゃったから戻れないということ事態おかしい。そこからもう位置関係がずれているということで、本末の意識を忘れてはいけない。そこだけを強く菊川市に言いたい。
- ・「パートナー」という言葉が我々のイメージと違って認知されている。
- ・私が国の会議に出たときも「パートナー」という言葉が本当はそれ自体が自立していることが条件によって、本当の意味での共同参画を指すとそのときわかった。だけど一方で2人で仕事をすれば「パートナー」という。まず互いが自立しているのが大事である。ただ主語がない、なんで互いに認め合うのか、人としてとかが入らない。「女と男が対等に認め合い」という意味の言葉が「パートナー」以外にあればいいのだが。そこが本当に女と男が認め合うというような…。間違えてはいけない。
- ・自立してとか。男性もしくは子どもにもわかるような。
- ・例えば家庭で夫らしく妻らしくという意味じゃないと言うには、なにか「パートナー」という言葉みたいなのが必要だと思う。自立とは難しい。
- ・この文は凄く大事だと思う。

## (2) 講評(男女共同参画推進懇話会アドバイザー 林のぶ先生)

- ・私は先に見させていただいたが、もっと荒かった。というのは、それを受ける課がそんな気持ちは全くない。だから中身もない、事業名も同じ内容が書いてある。だからそういう理解を得ながらどういう事業にしていくかっていうこと事態が、もう行動計画がこっちに向かっているということになるからとても大事。各課に「こういう事業をやっているから、内容はこういうことしてくださいよ」というのを全部説明しながら回って貰って、それが文章になったら最高なのだが。これは県も国も全部似たような事業やっている。共同参画の為に書いてある文もあるが、事業でやってあればアマチュアみたいな書き方もある。この事業名は丁寧に書いていただこうとかなり制御はした。でもこの程度では済まない、これから進めていくには。各課が男女共同参画とはどういうものかというのは分かっているし、とにかくこの事業をやれば事が済んだというようになる。事業の意味がなくなる。
- ・バイセクシャルの意味を分かって欲しくて、この古い資料を持ってきた。ここに「同一性対同一性拡散」とあるが、そこに出ているのが所謂バイセクシャルということである。1つの発達の段階の中で完全に自己統一が出来なかったような性を言われている。そういうように理解をしていただければ全てが見られると思う。それからハヴィガーストの発達課題は社会教育の本にもよく出ていて、色々な本を読んでいると最近までこの掛川市の本に出ている。だから皆様方がいろいろな場面で子どもの発達を考える時に、あくまでも参考として見て頂ければと思う。「幼児期」には歩行の学習・固形食物をとることの学習・排泄の学習などが必要だが、そのことを合わせて裏側を見ると凄い資料が出てくる。基本的な生活習慣が個人的と社会的と両方がある。「個人的」は一人立ち…自分の力で生きていくための必須条件だが、かつてはこぼさ

ないで食べるとかおもらししないとかこんな年齢になっていた。30年前とかなんですが。今は幼稚園に聞くと6歳でもおねしょをしている。紙おむつをしているとか。いわゆる排泄の学習をしていない。気持ち悪かったら引っ込めるという作用が出来ないというような非常に欠けている問題があって、待機児童0なんて盛んに言われているが私はずっと危惧して見ている。じゃあ全部収容すればいいのかと、何でもかんでもいいのかと。やっぱり幼児は幼児教育の整った環境の所に持っていかないと、家庭で出来ない部分を負っていただくのだけれど。今、なりふり構わず待機児童0にしようとしている。それで自己統制能力の方は2、3歳で人間として育てあがっていると、「後で」と言われても待つことが出来る。それから言葉の発達ですけれども、ラリルレロなど口の動きが難しい。だから子どもはちゃんと対峙しながら息を吹きかけられながら、口の動きを見て自分の体験にしていく。テレビを見ては駄目で、言葉は発達しないということは私が幼稚園にいた時に思ったこと。まだまだだと思うが、子どもさんに合った表現で検討して下さっていったらいいと思う。

それは自然に何度もその言葉を聞いている間に覚える。私が2年生の担任の時「先生、私明日デパートに行けて嬉しいです」と言った子がいた。2年生でもそういう言葉の使い方をする。その子の親は仲が悪いので日中一切ご夫婦の会話がない。ご両親は共働きでおばあちゃんに日中育てられている。でもテレビではやっている。だから正しく子どもが言葉を覚えるとき、言語教室に行って直ったが。そういうことがあって子どもが言葉を覚えることがどういうことかという事を良く考えた。だから幼児教育は1人に3人まで。赤ちゃんは、この人は信頼できるという人にしがみついてその人と会話をしながら習得していくものだと思った。だからそれが何でもいいからって、保育者がずんずん変わって1人が大勢見てこっちで呼んでも返事をしないなど、私はとても危惧している。

